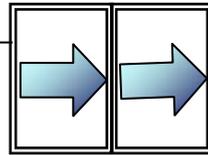


経済フローチャート

～日本経済の現状と6ヶ月見通し（10月5日時点）～

国内景況感

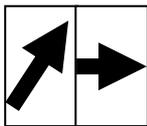
サプライチェーン復旧に伴う急回復局面が一巡したこと
から、景気の持ち直しペースは鈍化している。先行きは、復
興需要の顕在化が期待できる一方、海外経済の先行き不透
明感の強まりや円高を背景に輸出の減速が予想されるた
め、景気回復ペースは一層鈍化する可能性が高い。



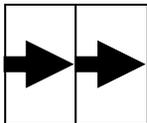
現状 6ヶ月後

(2011年10-12月期) (2012年4-6月期)

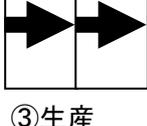
①世界経済



②輸出



③生産



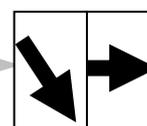
④企業収益



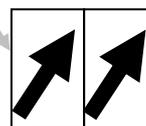
⑥雇用・賃金



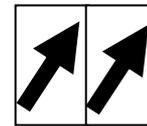
⑦個人消費



⑧住宅投資



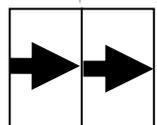
⑨公共投資



⑤設備投資



国内需要



⑩物価

(注) 矢印の方向は、各種関連統計、当社経済見通しなどを勘案して、判断している。

	コメント
①世界経済	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年前半にかけて、世界景気は財政問題の悪影響の広がりを懸念した金融市場の混乱などによって成長ペースが抑制される公算が大きい。先進国について、日米経済は金融・財政政策によって回復が予想されるが、株価の大幅調整の影響等により、緩やかな拡大にとどまろう。一方、新興国は金融引き締めや資金流出などにより景気拡大ペースが鈍化するが、内需が堅調さを維持し、世界景気を下支えすると予想する。 ・米国経済は、エネルギー価格の低下、減税などによる持ち直しが期待されるが、株価の下落、財政問題、不動産市場の低迷により緩やかな拡大にとどまろう。 ・ユーロ圏経済は、ドイツ経済が全体を下支えするものの、債務問題の広がりを回避するための財政規律の強化、金融市場の混乱などにより、低い成長が予想される。 ・アジア経済は、インフレ圧力の高まりを受けた金融引き締めや資金流出によって昨年の高成長からは減速するが、中国、インド主導で堅調さを維持すると予想される。
②輸出	サプライチェーン復旧に伴う急回復局面が一巡したことを背景に、輸出は足元で減速している。先行きも、海外経済の回復力が鈍いものにとどまることに加え、円高の悪影響が顕在化することが予想され、輸出の回復ペースは一層鈍化する可能性が高い。
③生産	サプライチェーン復旧に伴う急回復局面が一巡したことから、生産の持ち直しペースは鈍化している。先行きも、海外経済の回復力の弱さや円高を背景に輸出の減速が予想され、生産回復ペースは一層鈍化する可能性が高い。
④企業収益	企業収益は改善傾向にあるが、生産の減速に伴い、回復ペースは鈍っている。先行きも、生産減速や円高が下押し要因になることから、伸びの鈍化が続く見込み。
⑤設備投資	東日本大震災発生後も企業の投資意欲が大きく損なわれていないことに加え、復興需要の存在もあり、設備投資は増加している。先行きも、復興需要による押し上げにより増加する可能性が高いが、景気の先行き不透明感が強まっていることから、増加ペースは次第に鈍化する見込み。
⑥雇用・賃金	生産活動の持ち直しに伴って、雇用は下げ止まりつつある。先行きは復興需要に伴って建設業などを中心に増加が期待できるが、雇用過剰感が依然強いことから、改善ペースは緩やかなものにとどまる見込み。
⑦個人消費	地上デジタル放送への完全移行前の駆け込み需要の反動により、テレビ販売が大幅に減少していることから、個人消費は低調に推移している。先行きも、雇用・賃金の回復に大きな期待ができないなか、消費者心理の改善にも頭打ち感が出ていることもあり、低調な推移が続く見込み。
⑧住宅投資	大震災に伴う資材の供給不足が緩和されてきたことに加え、震災後の不安心理による着工の手控えが一巡してきたことから、住宅着工は持ち直している。先行きは復興需要も加わり、増加が続くと予想される。一方、各種住宅取得促進策が縮小される年明け以降、着工が一時的に落ち込む可能性があることには注意が必要。
⑨公共投資	11年度補正予算の効果から増加が続いている。成立が遅れている3次補正予算についても、来年度入り以降執行が本格化するとみられ、公共投資は増加が見込まれる。
⑩物価	ガソリンなどエネルギー価格は上昇しているが、需要不足の状態が解消されていないことから、エネルギー以外については下落が続いている。当面、緩やかな物価下落傾向が続く見込み。